



## 花き生産情報第3号

平成27年6月18日発表  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

換気や遮光をこまめに行うなど、ハウス内の温湿度管理を徹底しましょう。  
病害虫の早期発見・早期防除に努めましょう。

### 夏秋ギク（7～9月出荷）

#### 1 生育状況

生育は、施設、露地とも順調であるが、一部のほ場で乾燥による生育ムラが見られる。

病害虫では、アブラムシ類が散見される。

表1 生育状況（6月10日現在）

場 所	年 次	品 種	定植月日	草丈 (cm)	葉数(枚)
新郷村	本 年	精の一世	4月15日	64.3	32.0
	前 年	精の一世	4月19日	54.4	32.7
平川市	本 年	岩の白扇	5月 2日	48.3	28.4
	前 年	岩の白扇	4月23日	62.7	33.9
	平 年	岩の白扇	4月25日	55.9	26.7

(注) 新郷村の平年値：前年から品種を変更したため、なし  
平川市の平年値：平成20年～26年の平均値

#### 2 今後の作業

##### (1) 芽かき

わき芽は、花芽ができて5～7日すると伸びてくるので、小さいうちにかき取る。

##### (2) ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸びやすい品種は、発蕾期～摘蕾期のビーナイン顆粒水溶剤等で伸長を抑制し、品質の向上に努める。

##### (3) 病害虫防除

白さび病は、湿度が高いと発生しやすいため、こまめに換気するとともに適期防除を徹底する。

高温乾燥により、害虫が多く発生しているため、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類、アザミウマ類等の早期発見・早期防除に努める。

## 秋 ギ ク (10～11月出荷)

### 1 今後の作業

#### (1) 定植

ア 7月上旬に行う。定植の2～3日前には、定植床に十分かん水しておく。

イ 苗は、1～2cm程度発根したものを定植する。老化苗は、活着が悪くなるので使用しない。

ウ 定植後は、軽やかにかん水して活着を早める。

#### (2) 定植後の管理

ア 日中は25℃以上にならないように管理する。

イ 発蕾前まで十分にかん水を行う。

ウ 摘心を実施する場合は、苗が活着して地上部が生長を始める頃に行い、できるだけ葉を残して摘みとる。

#### (3) 病虫害防除

夏秋ギクに準ずる。

## トルコギキョウ

### 1 生育状況

全般的に生育は順調である。

病虫害では、ハモグリバエ類の被害が散見される。

表2 生育状況 (6月10日現在)

場 所	年 次	品 種	定植月日	草 丈 (cm)	節 数 (節)
青森市	本 年	はるか	4月11日	10.5	8.1
	前 年	シュークリーム	4月 3日	14.5	9.1
	一昨年	シュークリーム	4月25日	11.9	8.4
田舎館村	本 年	セブピンク	4月24日	14.9	7.9
	前 年	セブピンク	4月19日	18.3	8.2
	一昨年	セブピンク	4月16日	14.5	6.5

※ 品種変更により両地区とも平年値なし。

## 2 今後の作業

### (1) かん水

発蕾までは十分に行い、発蕾後は茎葉が軟弱徒長しないようかん水の間隔を徐々に広げ、水量を減らす。

### (2) 温度管理

日中は25℃以下、夜間15℃を目標に、換気や遮光・遮熱資材の活用等による温度管理を徹底する。

### (3) 側枝の整理

不要な側枝は早めに摘み取り、切り花品質の向上に努める。

### (4) 病害虫防除等

温度や湿度が上昇し、灰色かび病やアザミウマ類の発生が多くなる時期なので、定期的な薬剤散布及び早期発見・早期防除に努める。

チップバーンの発生しやすい品種では、必要に応じてカルシウム剤の葉面散布を行う。

花き生産指導情報第4号は平成27年7月17日発行の予定です。

---

決め手は土づくり！「日本一健康な土づくり運動」展開中！

---

◎農薬危害防止運動（5月1日～8月31日）

---